

終了までの医療費助成、中高生の通学費助成など、安心して子どもを産み育てることができるとまちづくりのための施策を実施します。

また、昨年から住宅の新築、リフォーム資金に対する助成を実施したところ、大変多くの方にご利用いただきました。住環境整備の面からの定住対策としても引き続き取り組んでまいります。

教育環境について

本町では、児童・生徒一人ひとりに応じたきめ細かな教育を行うため、独自の取組みとして、小学校1年生から3年生、中学校全学年で30人編制の少人数学級を実施してきました。県では、平成24年度から小・中学校の全学年で35人編制の少人数学級に取り組みたいとしており、本町においても小学校全学年に拡大することを検討しています。

また、建築から30年近くが経過し、塩害や老朽化による損傷がみられる岩美北小学校の大規模改修を行います。安全で安心な環境を整備することで、将来の岩美町を担う子ども達も充実した学校生活を送ることができるよう施設面からも教育環境の充実を図ります。

防災対策について

昨年は、東日本大震災をはじめ、年始の豪雪、台風12号など日本各地が多くの災害に見舞われた年となりました。改めて日ごろの備えがいかに重要であるかを痛切に感じると同時に、これまでの防災体制の見直しの必要性も浮き彫りとなりました。現在、県は地域防災計画の見直しを進めておりますが、町においても県計画との整合性をとりながら防災計画を見直すこととしています。また、地域における防災力の向上のため、引き続き防災研修会、防災訓練を実施するとともに、集落単位での自主防災組織の設置を進めます。

東日本大震災のような大惨事は二度とあってはなりません。この災害を尊い教えとして、町民の皆さまが安心して暮らせるまちであるよう、本町の防災対策に全力で取り組んでまいります。

このほか、重要な社会基盤となる道路整備については、昨年から駒馳山バイパスのトンネル工事が始まり、平成25年度の開通にむけて順調に整備が進んでいます。同じく鳥取豊岡宮津自動車道の一部をなす岩美道路と併せ、整備促進、早期開通に向けて関係機関への働きかけをより一層強めてまいります。これらの道路整備により、人や物の流れが拡大されることが期待されます。浦富海岸、岩井温泉といった山陰海岸ジオパークの魅力を広く発信するとともに、この観光資源を活用した観光客の誘致に取り組めます。また、農産物、



水産物を中心とする町の特産品の販売拠点としての機能をもった道の駅構想の実現に向けて具体的な検討を進めます。農林水産物の価格の低迷による所得の減少や従業者の高齢化、さらには環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)交渉への参加が表明されるなど農林水産業は非常に厳しい状況におかれています。生産者が加工、販売までを一体的に行う6次産業化への取り組みなど、事業者の所得向上を支援します。

新たな総合計画のスタートなど新年への期待は尽きませんが、地方自治体を取り巻く厳しい財政状況については、申すまでもありません。職員一同が第9次総合計画をまちづくりの指針として、計画性のある行財政運営に努め、全力で各般の施策の遂行にあたりますので、町民の皆さま方のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。結びに、本年が町民の皆さま方にとりまして、幸多き年となりますことを心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。